

(8) 政治への満足度

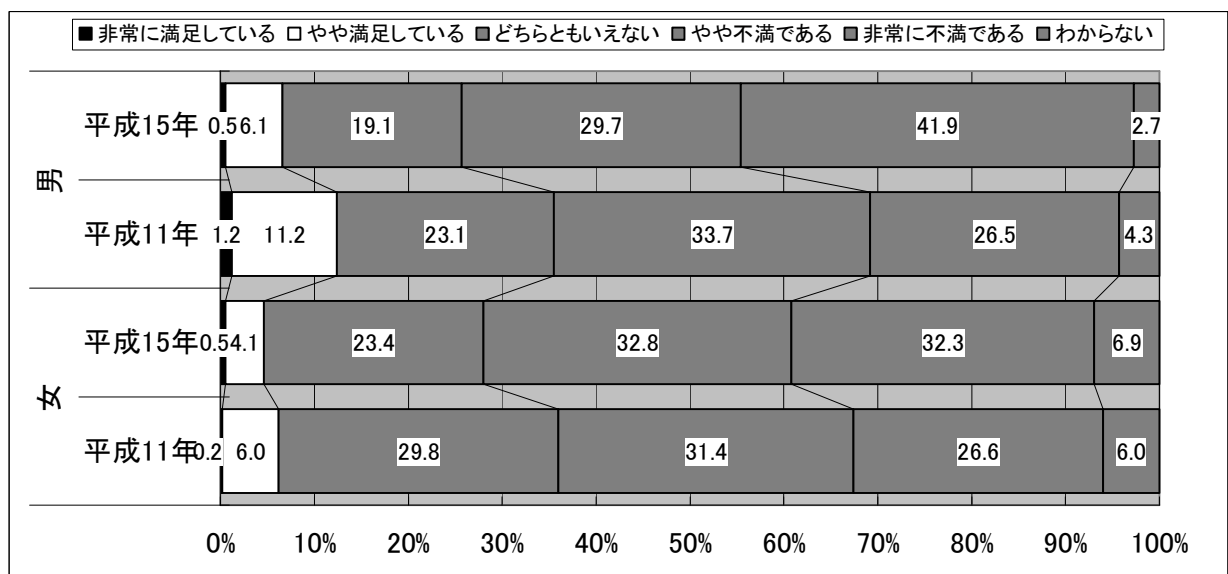
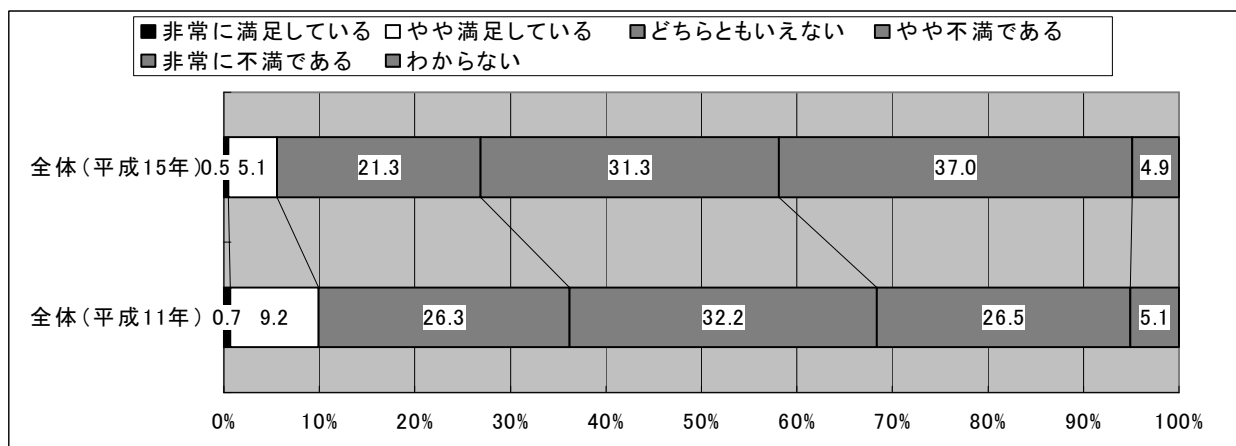
問8 あなたは、今の政治にどの程度満足していますか。

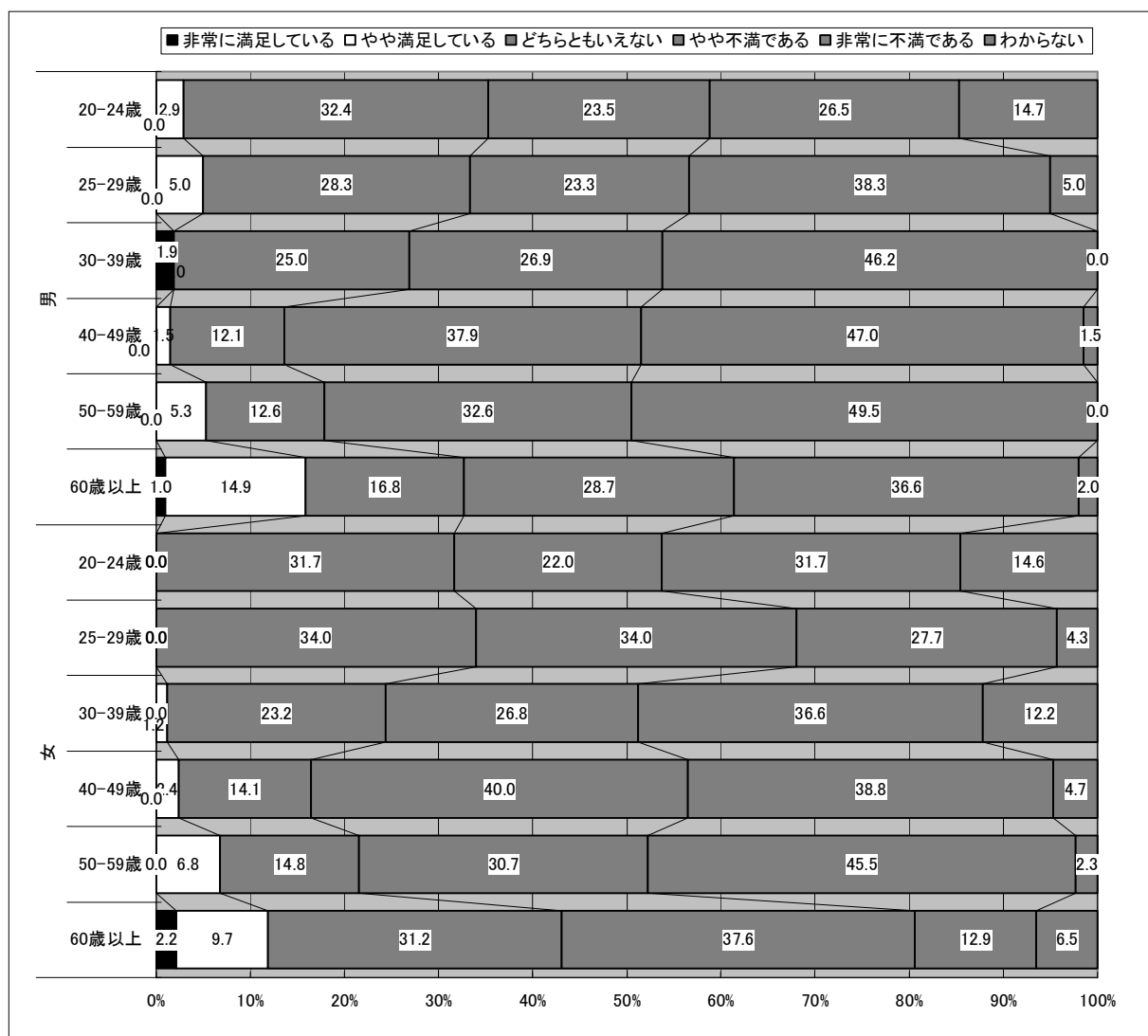
ア 政治に満足している人は5.6%（『非常に満足している』（0.5%）、『やや満足している』（5.1%））に過ぎず、政治に不満があると答えた人が68.3%（『やや不満である』（31.3%）、『非常に不満である』（37.0%））と、7割近くを占めている。

イ 男女別でみると、男性では『非常に不満である』と答えた人の割合が最も多くなっているが、女性では『やや不満である』と回答した人が『非常に不満である』との回答を僅かに上回っている。

ウ 年齢階層別でみると、『やや満足している』と回答した人は50歳以上に多く、中でも60歳以上の男性では14.9%を占めている。一方、20代は『どちらともいえない』が最も多く、30代～50代では不満と回答する割合が高くなっている。

エ 前回平成11年調査と比べると、『満足している』と回答した人の割合が減少し、一方『不満である』と回答した人の割合が9.6ポイント増加している。





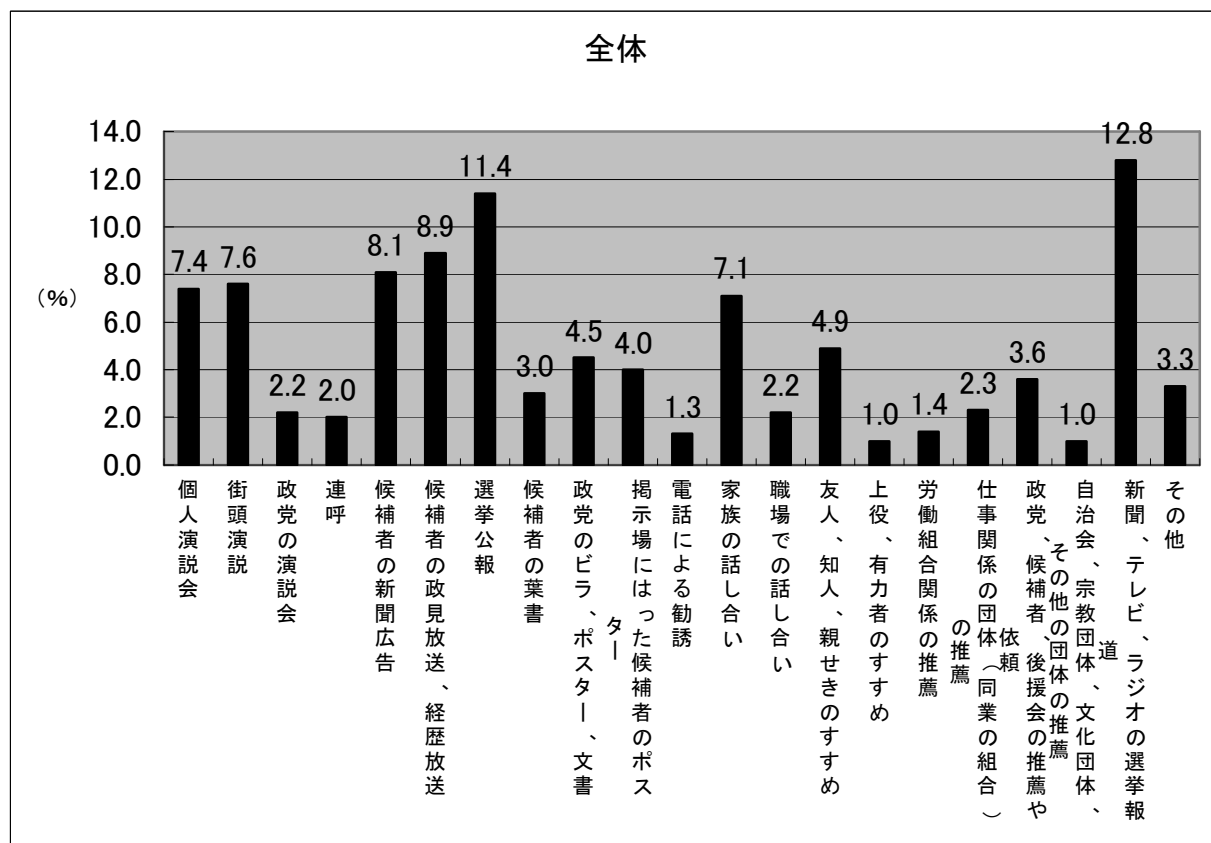
## 2 候補者を選ぶ経緯

### (1) 投票に役立った選挙運動等

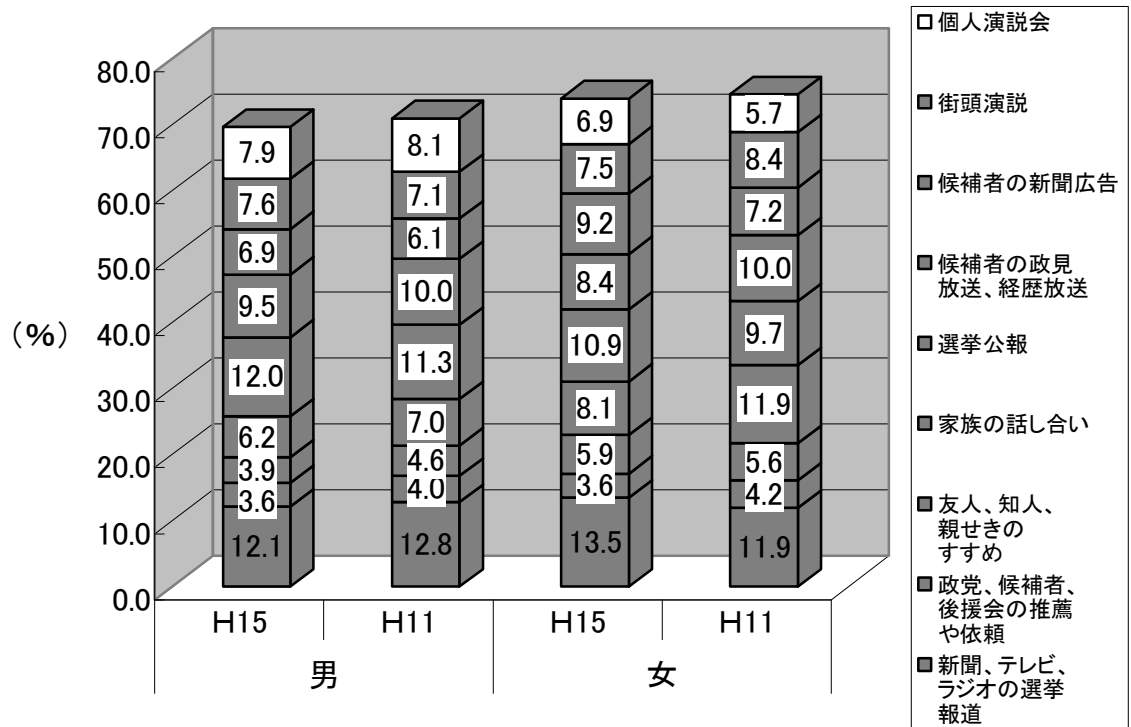
問9 4月13日の選挙で誰に投票するかを決めるのに役立ったものが次の中にありますか。あればいくつでもお答えください。

ア 『新聞、テレビ、ラジオの選挙報道』男女ともに最も多く（男性12.1%、女性13.5%）次いで『選挙公報』（男性12.0%、女性10.9%）、『候補者の政見放送、経歴放送』（男性9.5%、女性8.4%）と、全体的にマスコミを通じての情報が役立っていることを示している。このほか、『個人演説会』（男性7.9%、女性6.9%）、『街頭演説』（男性7.6%、女性7.5）が高い比率となっている。なお、女性では『家族の話し合い』のポイントが高く、8.1%を占めている。

イ 前回平成11年調査と比べると、選挙公報の割合が男女ともに増加している。



(主な項目)

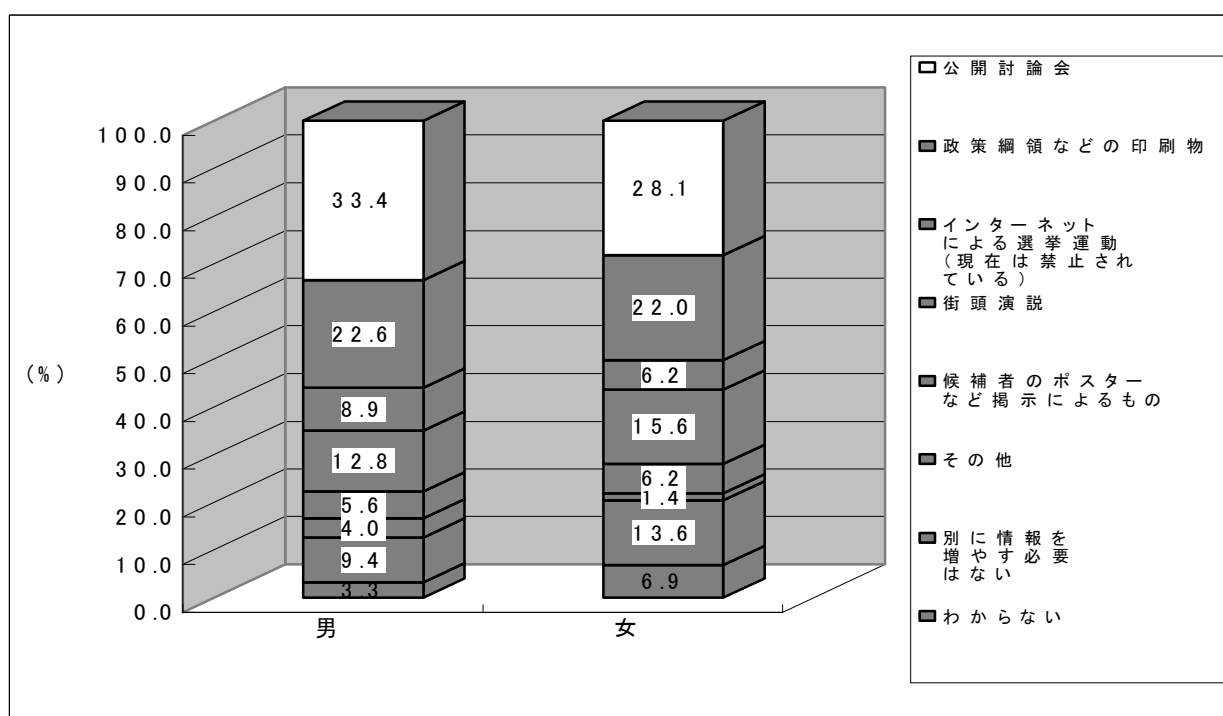
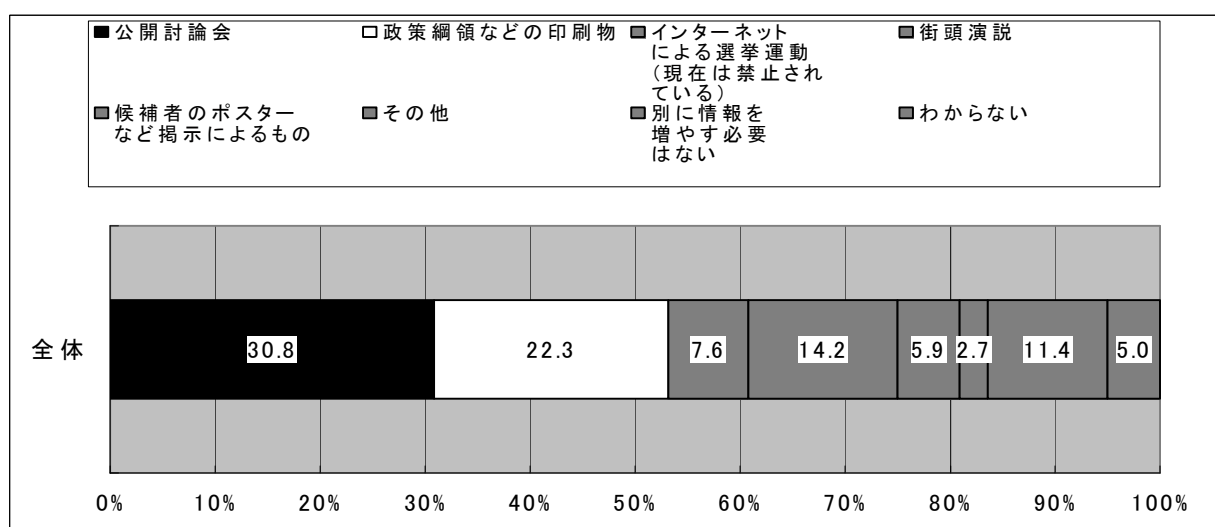


(2) 今後求める投票のための判断材料

問 10 選挙に当たって、候補者を決める際の情報や判断材料として、今後どのような情報を増やしてほしいと思いますか。あればいくつでもお答えください。

ア 男女とも、『公開討論会』という回答（男性33.4%、女性28.1%）が最も多く、次いで『政策綱領などの印刷物』（男性22.6%、女性22.0%）、『街頭演説』（男性12.8%、女性15.6%）という回答が多くなっている。

イ 『別に情報を増やす必要はない』との回答（男性9.4%、女性13.6%）も1割程度あり、現在は禁止されているインターネットによる選挙運動を求める回答（男性8.9%、女性6.2%）を上回っている。



(3) 政党重視か候補者個人重視か

問 11 4月13日の選挙で候補者を選ぶとき、あなたは、政党本位で投票しましたか、それとも人物本位で投票しましたか。

ア 男女とも『政党本位』より『人物本位』と答えた人が多く、男性では48.3%、女性では41.4%となっており、それぞれ『政党本位』の4倍以上となっている。

イ 年齢階層別でみると、『政党本位』と答えた人は男女ともに50代で、男性が9.6%、女性が8.0%と、また、『人物本位』と答えた人は男性では20代後半が55.8%、女性では50代が48.3%とそれぞれ最も多くなっている。

ウ 前回平成11年調査と比較すると、人物で候補者を選ぶ傾向には変わりがないが、『政党本位』、『やや政党本位』と回答した人の割合が減少し、より人物本位により候補者を選択する傾向が強くなっている。

